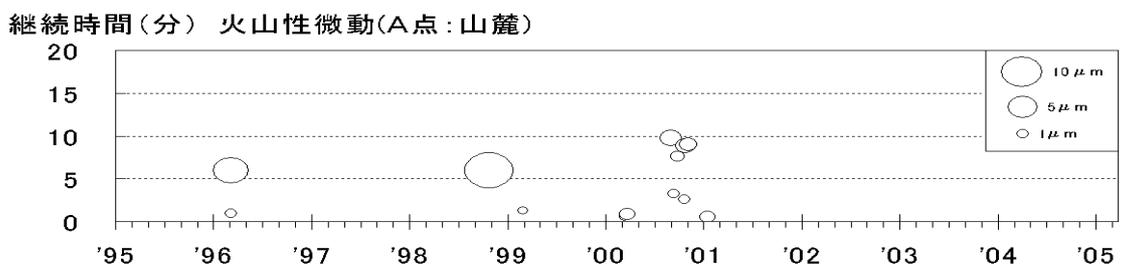
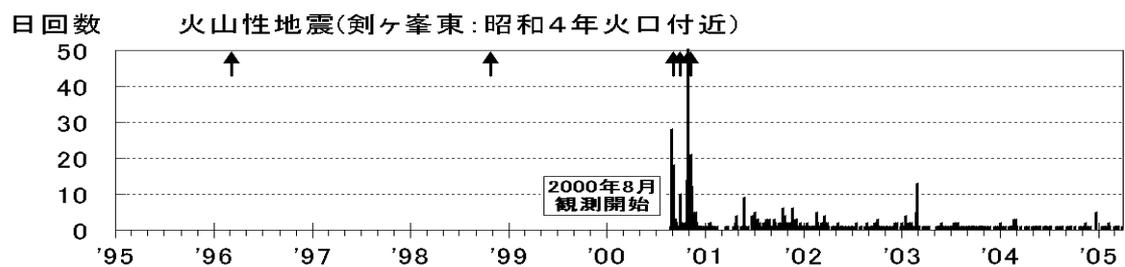
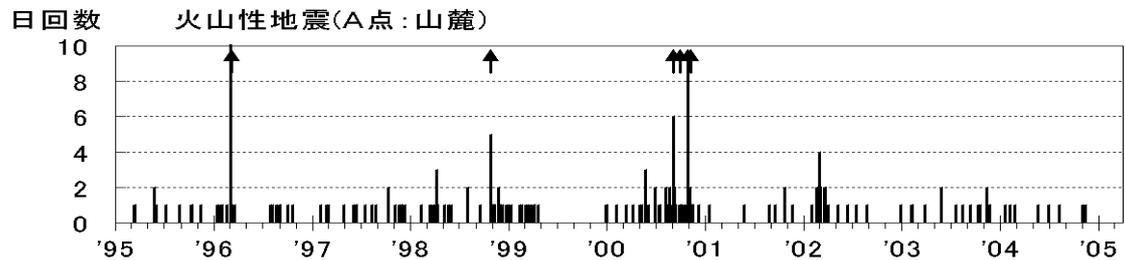
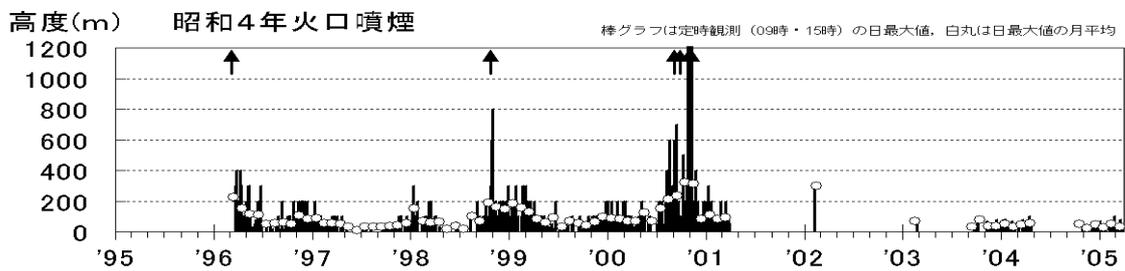
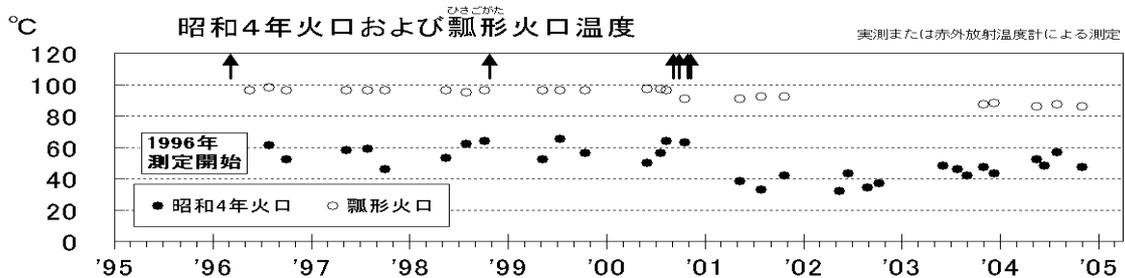


北海道駒ヶ岳

1 概況

火山活動は静穏に経過しています。わずかな山体膨張や、2003年9月以降見られている弱い噴気は引き続き観測されています。



2 噴煙の状況

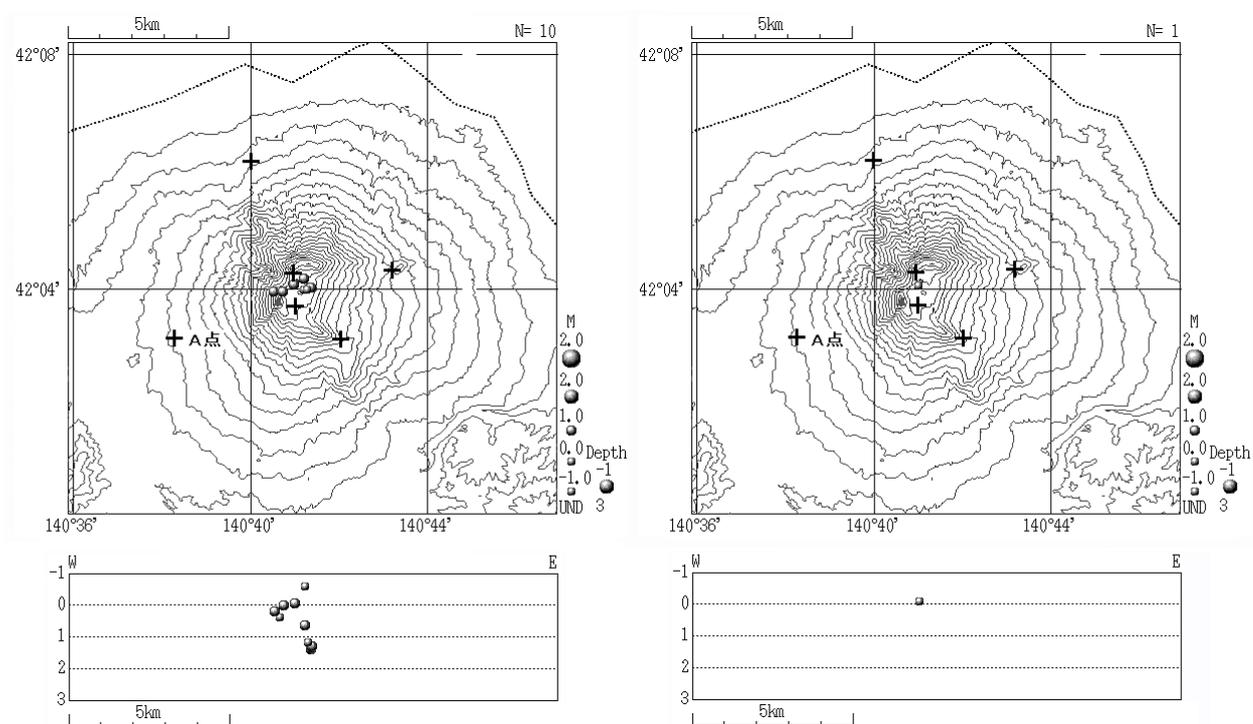
2003 年 9 月以降、昭和 4 年火口からの弱い噴気がしばしば観測されています。

3 地震の発生状況

今期間、A 点で観測された火山性地震はなく、山頂観測点で観測されるごく微小な地震も少ない状況でした。火山性微動は 2001 年 1 月以降観測されていません。

地震・微動の月回数（A 点）

2004～2005 年	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
地震回数	0	1	1	0	1	0	0	2	0	0	0	0
微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0



北海道駒ヶ岳の震源分布図（丸印：震源 + 印：地震観測点）

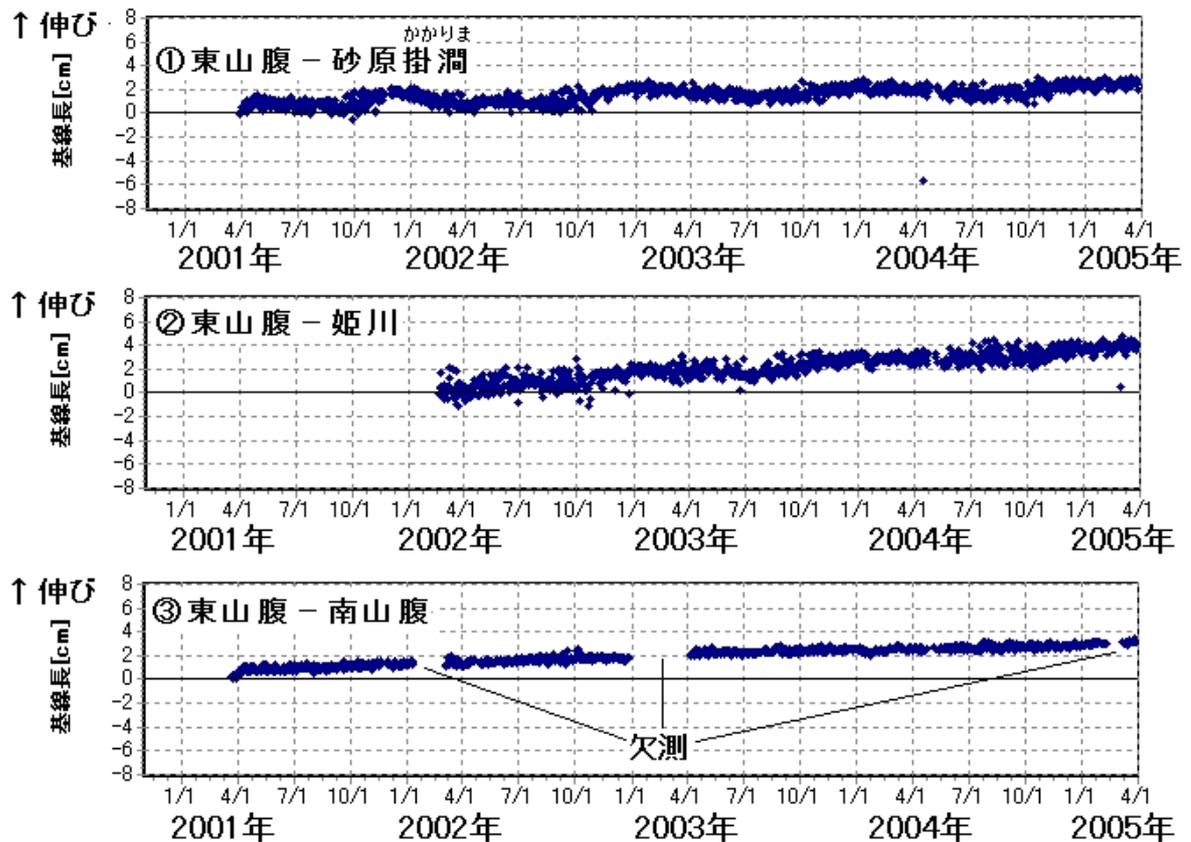
右図は今期間（2005 年 3 月 1 日～3 月 31 日）に求まった震源を示しています。

左図は前期間までの 11 ヶ月間（2004 年 4 月 1 日～2005 年 2 月 28 日）に求まった震源を示しています。

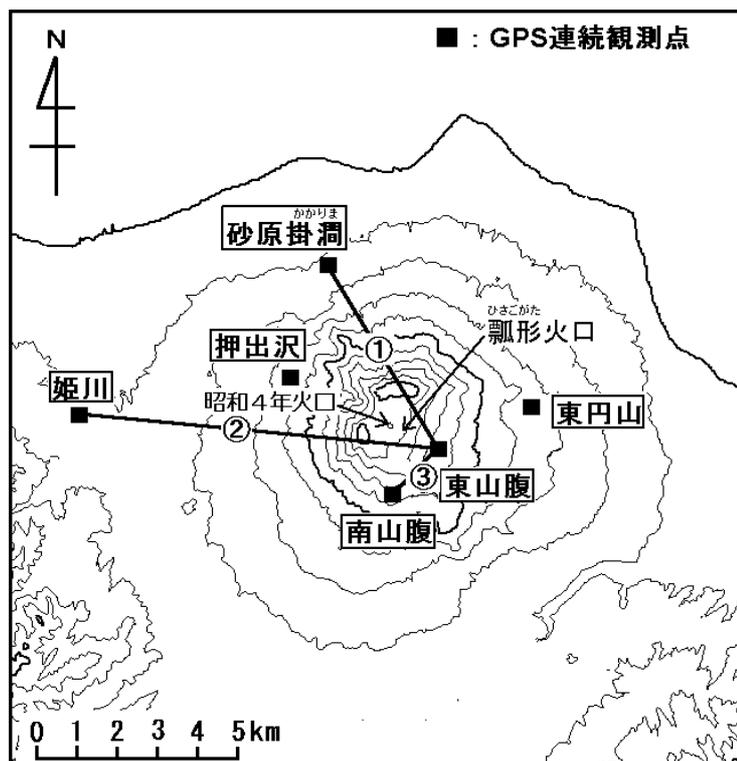
震源は大きく分けて山頂火口原直下の海面付近と、海面下 1～2km に集中しています。

4 地殻変動の状況

GPS連続観測では、季節変動の影響も見られますが、わずかな山体膨張を示す基線長の伸びの傾向が引き続き認められています。



基線長変化（2001年3月23日～2005年3月31日）



5 上空からの観測結果

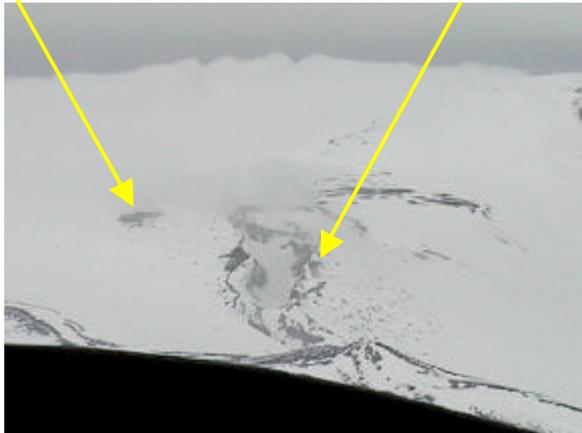
3月23日に北海道開発局の協力を得て上空からの観測を実施しました。曇天のため火口原全体を確認することはできませんでしたが、昭和4年火口では、2000年噴火のあった南側内壁部分から火口縁まで立ち上る程度の弱い白色の噴気が認められ、明治火口からもごく弱い白色の噴気が見られました。これらの状況に特段の変化はありませんでした。

96年南火口列東側の地熱域

昭和17年大亀裂

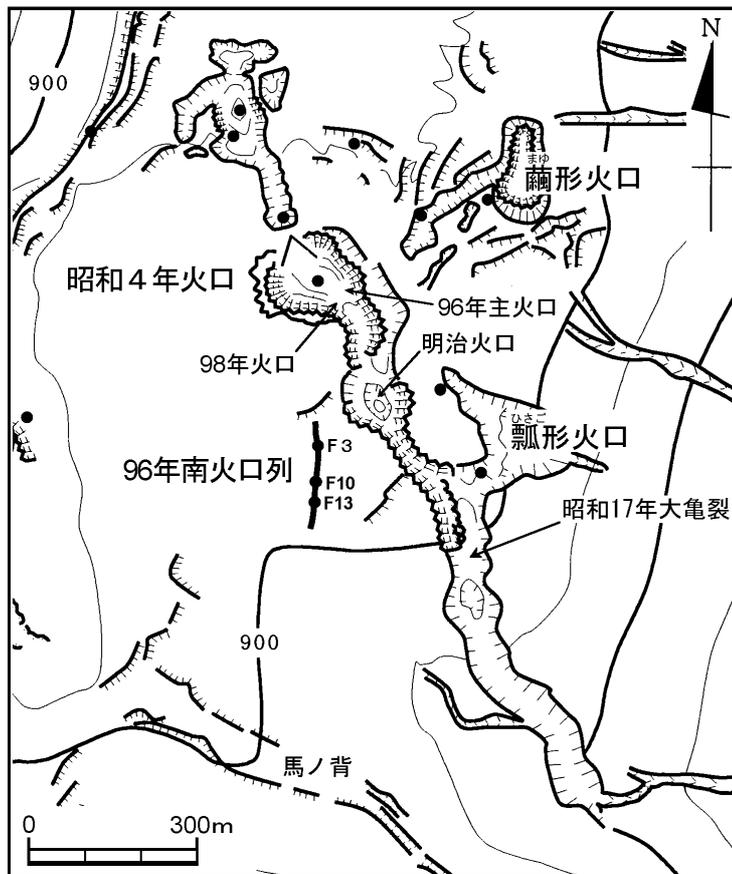
隅田盛

昭和17年大亀裂



南東側上空から見た火口原

北側上空から見た火口原



駒ヶ岳山頂火口原図